

いろんな遊びが大集合！みんなおいでよ！ あそびのつながり基地

- 【ねらい】 ① 集団遊びや遊びリンピックなど、様々な遊びの体験を通して、体験することの楽しさや喜びを親子や友達とを感じる。
② 遊びを通して、社会性を身に付ける素地を養う。
③ 保護者へ関係書類を配布し、「体験の重要性」や「体験の風をおこそう」運動の周知を図る。
④ 山口大学教育学部生の、教職に関する資質能力の向上に資する。

【期日】 令和2年10月25日（日） I部 9:30～ II部 12:30～ 【参加者】 408名 【場所】 山口市中央公園

【プログラムの内容】

遊びリンピック：ターゲットナイン、紙飛行機選手権、スリッパとばし

クラフトブース：ecoパッチ、ふくろうストラップ 子育て相談基地、スタンプラリー、アクティブサーキット

遊びリンピックブース



「ターゲットナイン」

ボール、ドッジビーから選んで9つの的を狙う活動。的を射抜いた瞬間の喜んだ表情、当たらなかったときのような垂れる姿が印象的で、何度も繰り返し挑戦していた。

「スリッパとばし」

助走をつけてスリッパを遠くまで蹴り飛ばす。思い切り蹴り上げて、空を舞うスリッパを目で追っていた。最後はスリッパについたひもを引っ張って自主回収。



「紙飛行機選手権」

山口大学教育学部小学校総合専修の学生たちが考案した活動である。自分で作ったオリジナルの紙飛行機が遠くまで飛んだ時は、子どもたちも大喜びしていた。



アクティブサーキット



自由に周遊できるコースの中には、一本橋、でこぼこゾーン、数字飛び石、けんぱ池などバランスを取ったり、ジャンプしたりと体をうまく使って進むスポットが設置されている。何回もチャレンジして夢中になっている姿が印象的だった。大人も子どもも楽しむことができる人気のブースとなった。

クラフトブース



「ecoパッチづくり」

SDGsの17色を使ったパッチを木の板に塗ってパッチづくりに取り組み、集中して作り上げていた。一緒に配布したSDGsの資料を読んで、興味・関心を高めてくれると嬉しく思う。

「ふくろうストラップづくり」

使い馴染みのないナイフを使って、ふくろうの顔を作るところからスタートした。目を描き込むことで一つ一つ表情の違ったふくろうができていた。自慢げに掲げる子も見られた。



子育て相談基地

講師：Comfortable Place代表 黒田 幸ほ氏



黒田幸保氏にキッズコーチングの観点から子どもの気質判断を用いた「子育て相談基地」を開催した。熱心に耳を傾ける保護者の横で、子どもたちは積み木を使って自由に組み上げる遊びを楽しんでいた。和やかに時間が過ぎていった。

「ポン太と記念撮影」

とくちの森からポン太も来場した。感染症対策のためポン太とハイタッチや握手はできなかったが、記念撮影会には長蛇の列ができていた。



【参加者（保護者）の声】 「思い切り体を動かす機会が提供されてよかった、子どもたちも楽しんでいた」「子どもたちが飽きずに回れて、大人も一緒に楽しめた」等の声をいただいた。

【成果】 幼児から中学生まで多くの子どもたちと保護者にご来場いただくことができた。様々な体の動きや考える活動を設定することができ、楽しみながら遊びに集中できる環境を作ることができたと考える。感染症対策として事前予約制にし、参加者を制限したため会場内では概ね混雑する時間を減らすことができた。山口大学教育学部小学校コース小学校総合専修の学生に子どもたちの発達の特性と事業のねらいを達成するためのあそびづくりの機会を提供することができた。

【課題】 当日参加を希望する家族が多く、事前の告知や入場整理に戸惑うことがあった。提供するブース数と来場者の対応を鑑みて当日のスタッフ数が不足していたため、負担が大きくなってしまった。